

令和5年度 和光市みなみ保育園における
自己評価(園の評価)

5, とてもよい 4, まあまあできている
3, ふつう 2, あまりできていない 1, まったくできてない

項目	内 容	評価	根拠・改善方法
人権尊重	①子供の人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てる保育をしているか。 ②子どもの名前を呼び捨てにしないか。 ③子どもの身体に乱暴に触れないか。 ④否定的な言葉や、脅すような言葉を使っていないか。 ⑤保護者の国籍・思想・宗教により、また、子どもの性差・障害・個性差によって区別、差別していないか。	3.8	子どもの人権に配慮し、文化の違いを認め、互いを尊重する心が育つよう工夫している。一人ひとりと丁寧に関わりをするよう意識している。呼び捨てにしないことや、身体への触れ方等、一人一人が意識をして接する事が出来た。
責 任 明	理念や基本方針、保育内容を利用者に周知しているか。	3.4	入園時に、入園のしおりや重要事項説明書、コドモン(ICT)の資料室やクラスの懇談会等で周知している。
保 護 報	利用者の個人情報適切に取り扱っているか。	4.2	子どもの個人情報等は必要な情報のみ職員に周知し、文書についてはファイリング等で管理している。
処 理 情	①保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、迅速に対応しているか。 ②園の苦情解決システムについて理解しているか。	3.5	苦情用窓口や苦情用専用メールアドレスを設置している。苦情や悩みを聞いた時は、担当職員間で速やかに協議し、保護者と面談等の対応をし解決するよう取り組んできた。
食 育	①食育を通して、子どもたちが食事を楽しむことができる工夫をしているか。 ②子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携しているか。 ③食物アレルギーの他、文化、習慣の違い等、個別に配慮した食事を提供し職員同士の確認ができていないか。 ④職や食材に興味を持てるよう、年齢に応じた働きかけができていないか。	3.7	食育年間計画を作成し(各年齢毎)、クッキングや栽培等を行っている。給食サンプルの展示や保育参加で試食を行い、味付け等も保護者に味わってもらう。また、栄養士と会議を行い、喫食状況を報告し共有している。
衛 生 支 援	①保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施しているか。 ②内科健診、歯科検診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させているか。 ③感染症発生時のマニュアルに沿って対応しているか。 ④感染症の発生状況を保護者に周知しているか。 ⑤午睡中に呼吸・姿勢・顔色の確認を行っているか。	3.8	マニュアルに基づいて対応している。流行時はコドモン(ICT)にて速やかに周知している。コドモンを活用し検診の結果等を通知し保護者と情報を共有している。
環 境 ・ 安 全 管 理	①事故防止のチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っているか。 ②施設内外、設備の安全点検を定期的に行っているか。	3.6	月毎の危険箇所の点検・年1回の遊具点検を行い、修繕が必要な場合は速やかに改修している。事故防止については、ヒヤリハット報告書に記入して職員間で情報共有している。
災 害 へ の 備 え	①園内にある備蓄品の把握ができていないか。 ②避難訓練(火災、地震、不審者等)は役割や状況に応じた実践的な対応ができていないか。 ③みなみ保育園業務継続計画について理解しているか。	3.3	定期的(年2回)に備品の点検を行っている。緊急時のマニュアルについては、見直しを行い今後役割り等の周知を徹底していきたい。 みなみ保育園業務継続計画を策定し、職員・保護者への周知に努めている。まだ周知が不十分な点があるので、今後周知の仕方に工夫をしたい。
地 域 育 と の 支 援 携 携	①一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、信頼関係を作っていけるよう努力しているか。 ②家庭の状況や、保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されているか。 ③子どもの発達や育児等について、懇談会等の話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けているか。 ④地域との関係が適切に確保されているか。(運営委員会、子育て支援センター、遊ぼう会等)	3.6	コドモンや連絡ノート、送迎時に日常の様子等の情報交換を行った。懇談会や定期定面談に加え、必要に応じて個別に面談を行った。遊ぼう会や見学等を通して、園児以外の子育て家庭の悩み相談等にも対応した。
ケ ア 地 域 支 援 課 等	①虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が園長まで届くようになっていないか。 ②虐待を受けていると疑われる子どもの保護者の対応について児童相談所・地域包括ケア課等の関係機関に照合、通告を行う体制が整っていないか。	3.8	発見時の通告の体制は整っている。子ども家庭支援課との連携を密に取り、最善の注意を払うよう努めた。

項目	内 容	評価	根拠・改善方法
2 小 歳 学 へ 児 校 の か と 移 ら の 行 3 連 歳 携 児 ・	①小学校との間で交流する機会を設けており、職員間の話し合い、研修などが行われているか。 ②卒園した子どもの情報を得るように努めているか。 ③2歳児から3歳児の進級時は、特に大きく環境が変わる為、十分配慮し子どもや保護者の気持ちに寄り添っているか。 ④転園児に対して、各施設からの情報を共有・重要事項は園内で共有しているか。	3.2	幼保小連絡協議会や事業者との報告会を通じて連携体制を密にすることが出来た。 小規模等他園からの転園児は入園前に前事業所職員と引継ぎ(書面又は面談)を行うとともに、5月頃に保護者と個人面談を行い、園児・保護者の負担軽減へと工夫した。
多 様 な 児 童 へ の 配 慮	①環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られるか。 ②環境や保育内容、スケジュールに必要な調整がされ、障害を持つ子どもが他の子どもと一緒に多くの活動に参加しているか。 ③障害のある子どもの保護者と情報交換し、目標を設定したり保育内容についてのフィードバックを行ったりしているか。 ④個別に支援計画を立てる、園内ケア会議を開く等、適切な配慮と支援を行っているか。	3.5	個別の支援計画を作成したり、ケアマネージャーや療育施設、保護者を交えての担当者会議を行い、目標を設定してきた。園内でのケア会議を通し、職員間での情報共有を行った。
資 職 質 員 向 の 上	①日常的に保育の振り返りや、記録の共通認識ができているか。 ②研修を通して、資質向上の取り組みを行っているか。 ③保育にたずさわる者として、専門知識や技能を身につけているか。 ④自ら子どもや教育・保育に関する情報を日頃から得ようとしているか。 ⑤社会情勢や季節の変化などを感じ取る感受性を大切にしているか。	3.5	市内全体研修への参加や埼玉県保育協議会主催の研修等へ参加をした。見失いや虐待等について計画的に園内研修を行った。

項目	内 容	評価	根拠・改善方法
保育内容	【基本的生活習慣の確立】 ①食前食後の衛生面での準備ができているか。(手洗い、テーブルの清掃など) ②子どもが自分でしていることを見守り、必要に応じて支援しているか。 ③子どもが食前食後の挨拶ができるように働きかけているか。 ④子どものペースに合わせ、和やかな雰囲気の中で食事ができるようにしているか。 ⑤嫌いな食べ物も本人が食べようという気持ちになるよう、丁寧に働きかけているか。 ⑥スプーンやお箸の持ち方、姿勢が保てるよう、必要に応じて支援しているか。 ⑦排泄の後始末・手洗いなど自分でしていることを見守り、必要に応じて丁寧に支援しているか。 ⑧身のまわりの片づけや着替えが自分でできるように働きかけているか。 ⑨睡眠は個々の状況に応じ、落ち着いて休息できるよう配慮しているか。 ⑩ある程度の休息は取れるよう促し、眠くない子どもは無理に寝かしつけていないか。 【保健衛生・安全】 安全について年齢にあった知識が身につくようにわかりやすい言葉で伝えているか。 【基本的な子どもとの関わり】 ①言葉かけは肯定的で子どもの思いに寄り添ったものであるか。 ②子どもの目線に合わせて話をし、大声を出すなど遠くから呼んでいないか。 ③子どもの言葉や思いを聞き、受け止めているか。 ④注意深く子どもを見ており、一人と関わっている時も全体に注意を向けているか。 ⑤必要に応じて子どもを助けたり励ましたりしているか。 【内容】 ⑥保育士として社会的に良いやりとりの見本になっているか。 ⑦子ども全員に仲間同士の肯定的なやり取りが生まれるように配慮しているか。 ⑧一日を通して温かな声掛けや雰囲気ですべて接しているか。 ⑨必ず声をかけてから子どもに関わっているか。 ⑩いつも子どもの感情や反応を敏感に感じ取り、その時のニーズに応じたやりとりをしているか。 ⑪子ども同士の問題を解決するのに、話し合いができるように援助しているか。 【遊び】 ①子どもが自発的に遊べるような空間や時間が保障されているか。 ②年齢、発達に合わせた遊具を用意しているか。 ③おもちゃは決まった場所に整理され、発達に応じて入れ替えられているか。 ④手や指を使って遊ぶのに適切なおもちゃが量・種類とも適量あるか。 ⑤遊びのコーナー分け(積み木・ままごと・絵本・机上)ができている、物が系統的に収納されているか。 ⑥遊んだ後、元の場所へ片付けるよう促しているか。 ⑦生活の中で比べる、数えるなど形や数に親しむ活動があるか。 ⑧日常的に自然や生きた動植物に接する機会があるか。 ⑨子どもの使える楽器があり、楽しんで取り組めるようにしているか。 ⑩歌やふれあい遊び、わらべ歌などで子どもと遊んでいるか。 ⑪年齢、興味、関心にあった絵本を用意しているか。 ⑫子どもの描画・制作活動にふさわしい材料を用意しているか。 ⑬教材を用いて個性的な表現ができるようにしているか。 ⑭棚やおもちゃは衛生的で、修繕が必要な場所は報告し、簡易的な物は自分で直す、危険を回避する応急処置等しているか。 ⑮一人で落ち着いて遊べる空間、少人数でこじんまり遊べる空間があるか。 ⑯子どもが自ら遊びたいと思えるような働きかけをしているか。 ⑰子どもの作品が飾られているか。 ⑱体を使って遊ぶ遊具や設備を活用しているか。 ⑲戸外で子どもが快適に過ごせる環境を整えているか。 ⑳遊具はある程度の数がそろっており、整理整頓されているか。 ㉑一人ひとりの子どもの遊びを保障し、他児への関心を促しているか。	3.6	自己肯定感が持てるような言葉かけや働きかけを意識し、個々の関わりを大切にした保育を行っている。 自主性や主体性を尊重する保育を意識し、個々のペースに合わせゆとりを持った関わりを心掛けてきた。また、発達や家庭状況に合わせ保護者に寄り添いながら子どもの育ちを共に喜べる環境作りを行った。 行事の見直しを図り、日々の保育からの連続性を大切に行事を行ってきた。 各保育室に遊びのコーナー分け(積み木・ままごと・絵本・机上)を設定し、発達に合わせた環境設定を行う事ができた。